



子どもが生み出す造形活動

～ 1年間のあゆみ～



園長コラム

#08

今年も熊本県立美術館 本館で子ども達の絵の展示会ができました。11月には、東京四谷の「CCR 美術館」で行った全国公募展「東京展」を熊本でも開催したのもであり、熊本日日新聞やRKKテレビからの取材もありました。また、大分県在住の、美術担当の大学の先生で前田先生も見学に来られました。

最近思うのですが、少しずつではありますが、子ども達の絵について興味のある方が見に来られるようになりました。アンケートにも「子ども達の絵は素晴らしい」との言葉も沢山聞かれるようになりました。

子ども達が保育園で、たくさん遊ぶことで子ども達は明るく元気になってきてます。自由に伸び伸びとして絵が描けた時の子ども達は満足します。そして、子どもの絵も人から真似た絵ではなく、世界中に一

枚しかない自分だけの絵がでできます。保育園での経験はとってもすばらしいものでした。

14名のみんな「卒園おめでとうございます。とても立派に見えて嬉しです。」

園長 佐々木法音



現代美術作家

長谷光城氏

【美術作家として】個展 32回、美術館等による企画展・グループ展で作品発表。作品集「長谷光城」および「作品集2」を出版。

【子ども美術研究家として】子どもの生活＝遊び＝造形活動として研究。保育誌「げんき」に「子どもの絵や造形が、子どもの育ちを語る」を連載中。『子育てルネッサンス』出版。

2012年 共著『子どもが生み出す絵と造形』を出版。

【受賞歴】教育者として、福井県功労者表彰、瑞宝小綬章。美術作家として、第16回現代日本美術展大賞 など受賞多数。

人類が二足歩行をするようになって、前足は手となりました。

その手が自然の素材に関わりながら、変化させる行為が造形活動へと発展してきました。人間は早くから美術文化と話し言葉を獲得し、その後に文字文化を獲得してきました。

言葉にはイメージを高める力があります。しかし、豊かな遊び、造形活動がなく話し言葉のみが先行すれば、概念画を生み出します。

子供たちは絵を描いて認識を高めます。子供たちは絵や造形活動と話し言葉で美術文化をつくりだし、その後に文字文化を獲得します。故に、保育園時代の造形活動は人としての基盤を作る時代といってもいいと思います。



木彫家 上妻利弘氏

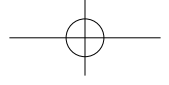
「造形指導」という聞きなれないことをかれこれもう何年もやっている。幼児教育の中にアートを取り組ませるとのことみたいだ。イタリアではすでに80年近く前から行われていること。

日本での取り組みも、数ある保育園のなかでも意識の高いところだけだ。

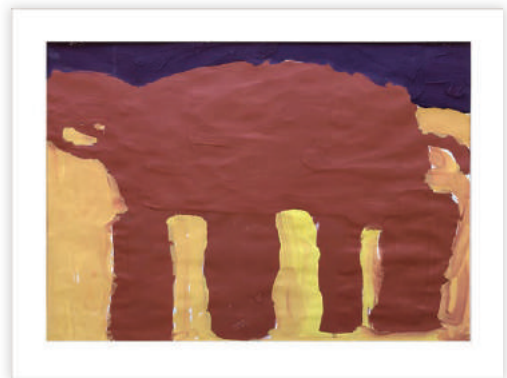
園児にアートを教える、なんてことではない。僕の場合。こんな楽しいこともあるよ、やってみな！という感じだ。小さい子供に、やらせる・上からさせるってことは意味がない。本人がやりたいこと、楽しいって本当に思えることだけでいい。大人がどんなにつまらなさを感じることで、子どもたちにとって楽しいことならどんどんやらせることだ。大人の狭い領分で采配しても、全く意味がないと思ってる。好きなことをやってる時の集中力は、半端ない。それが、将来意味のあることにつながる。

いつも言ってることだが、小さい時にどれだけ好きなことに集中できたかで、その子の将来は決まるといっても過言ではないと思っている。この前の教室で、板にただ釘を打つ、っていう授業をした。ただの釘打ちだ。子どもたちの集中力はすごかった。楽しくて仕方ないみたいで、なかなかやめない。金槌で手を何回もうってもだ。教える、というより、自分も楽しんでる。人生楽しまないと！





くろだれあ



たにぐち やまと



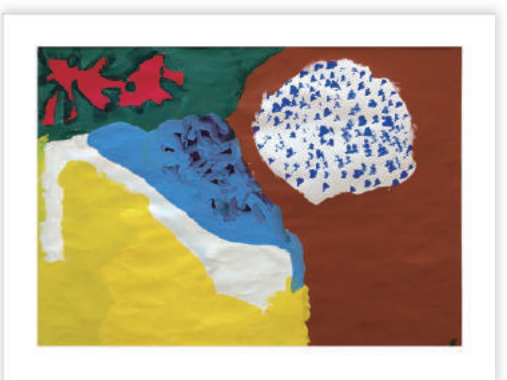
やまぐち まさた



きはら きらり



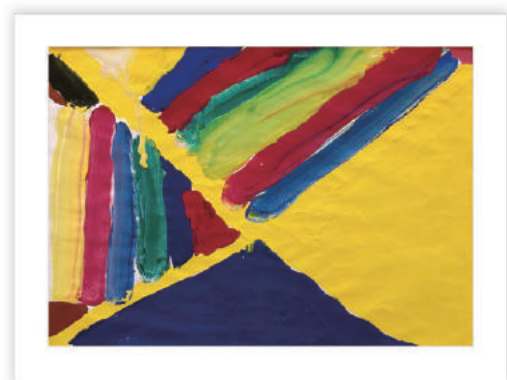
みやはら ゆうま



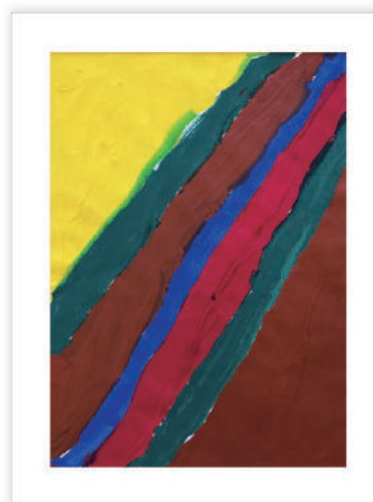
たかきりゆうしょう

主催 NPO法人 子ども美術研究会
 いのちかがやく子ども美術展
 in KUMAMOTO
 卒園記念展

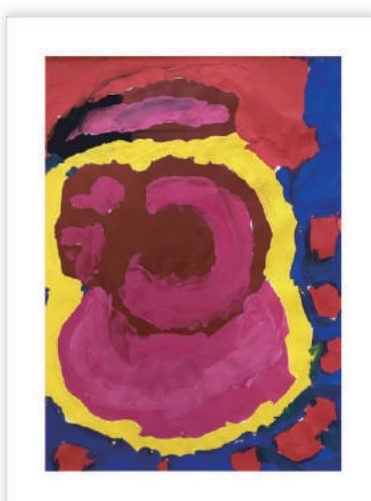
at 熊本県立美術館本館 - 1階展示室 -



とみた あかり



くどう えな



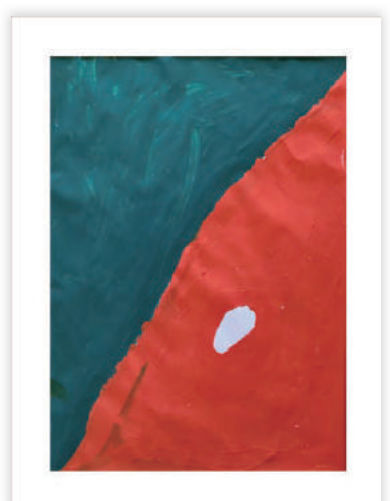
いわむら わかこ



かわの えな



ほしこ そうすけ



よしおか ちな



たにぐち あきほ



くどう そらと

